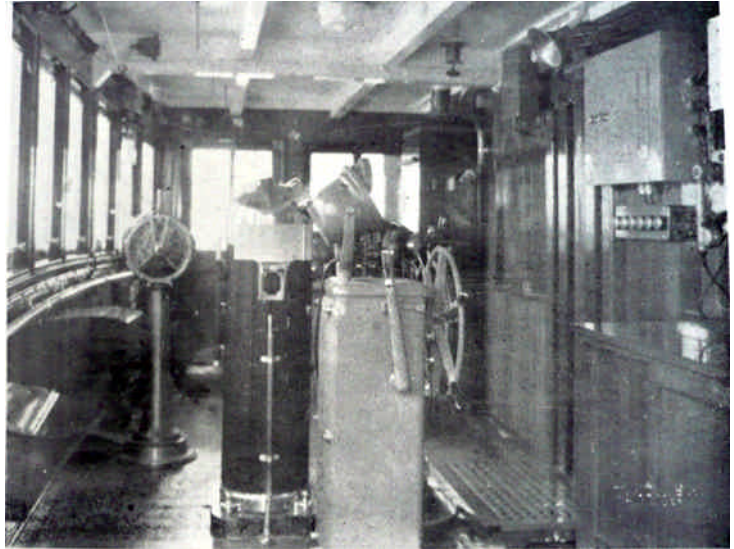


昭和20年代の WHEELHOUSE, RADIO ROOM

1) W25-01

「船舶の写真と要目」 天然社 より
(昭和26年7月25日 発行)
・貨物船 「吾妻山丸」 WHEEL HOUSE
総トン数 : 6,993 T
船主 : 三井物産 (株)
建造 : 三井造船 (株) 玉野
昭和25年12月12日竣工

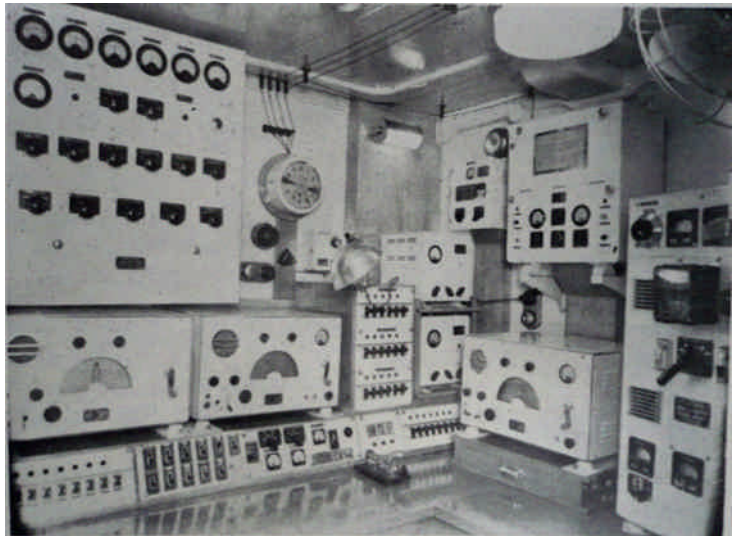
- ・操舵スタンドの前に見えるのは磁気コンパスと思われる。
- ・エンジン・テレグラフも見える。



2) W25-02

「船舶の写真と要目」 天然社 より
(昭和26年7月25日発行)
・油槽船 「GRED MAERSK」
RADIO ROOM
総トン数 : 12,184 T
船主 : メルクスライン
建造 : 三井造船 (株) 玉野
昭和25年10月5日竣工

- ・受信機3台がテーブルの上に見られる。
右にあるのは送信機。
左の受信機の上にあるのは無線機用の配電盤と思われる。
- ・天井の照明は白熱灯である。



3) W25-03

「船舶」昭和26年4月号 より
・「YAMA」号 WHEEL HOUSE
・ディーゼル貨物船でフランス向け輸出船。
・建造 : 東日本重工 (株) 横浜造船所
昭和25年12月竣工

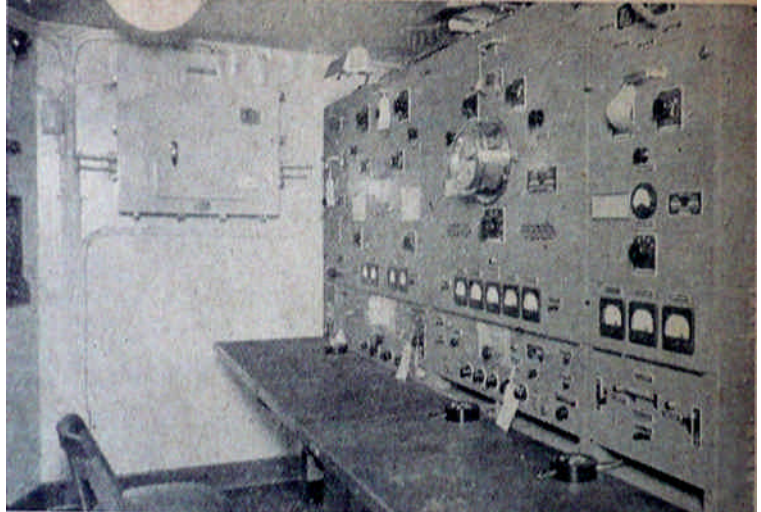
- ・この船も磁気コンパスが操舵スタンドの前に配置されている。天井には伝声管 (Voice Tube) が、後壁には電話 (無電池式) が見える。
- ・天井灯は白熱灯。



4) W25-04

「船舶」昭和26年4月号より
・「YAMA」号 RADIO ROOM

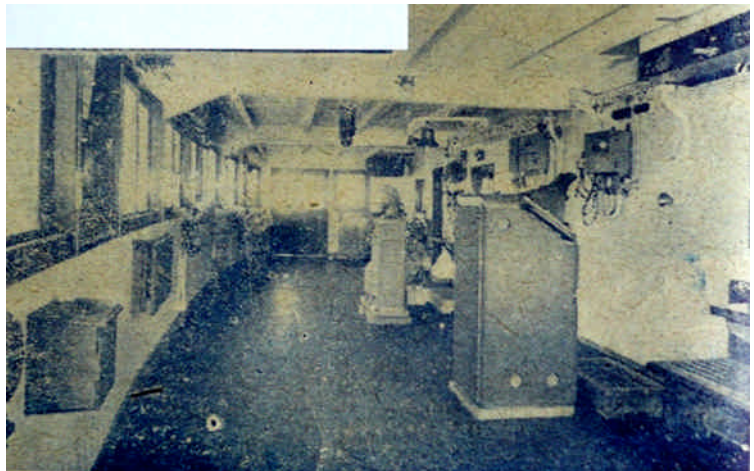
- ・無線機はアメリカRCA製、縦型のコンソール式になっていて、当時としては最新鋭と思われる。国産に比べはるかに小型で高性能と記されている。



5) W26-01

「船舶」昭和27年1月号より
・鯨工船「日新丸」WHEEL HOUSE
・建造：川崎重工業(株)
昭和26年9月引き渡し

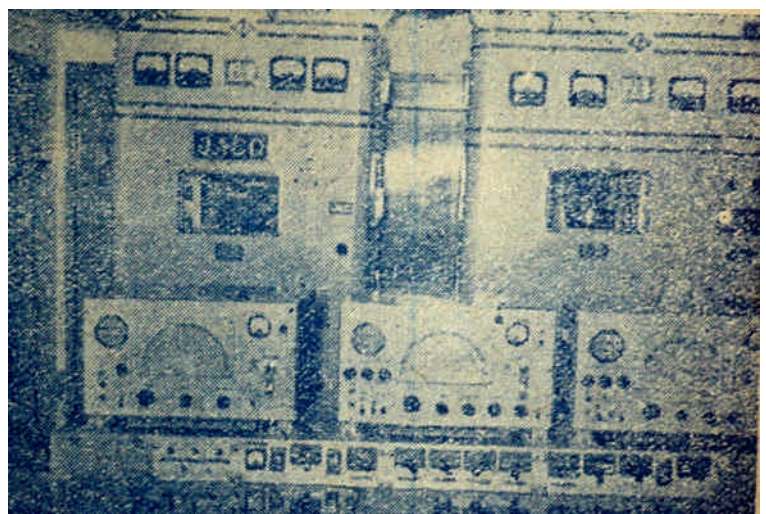
- ・左舷側にレーダ指示機が装備されている。また磁気コンパスはW/H内には見られない。この頃から反映式コンパスが採用され始めた模様。天井の中央に黒く見えるのはコンパスの筒である。



6) W26-02

「船舶」昭和27年1月号より
・貨物船「国島丸」RADIO ROOM
・本船は第6次計画造船。
船主：飯野海運
建造：石川島重工。
昭和26年10月31日引き渡し

- ・写真が悪いので分かりにくいですが、テーブルの前面に受信機が3台並べられている。後部は送信機2台(主、補助)



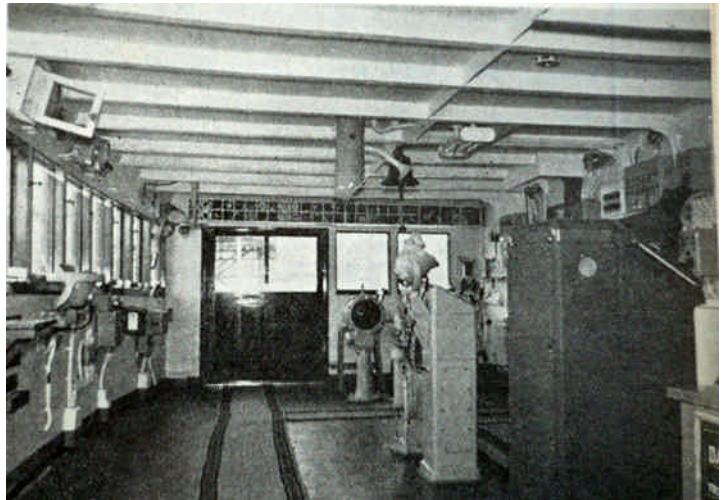
7) W28-01

「船舶」昭和28年9月号 より

・油槽船「高邦丸」 WHEEL HOUSE

DW : 28,000 T

- ・中央に操舵スタンド、左舷にレーダ指示機、右舷にエンジン・テレグラフが見える。磁気コンパスは反映式となっている。



8) W29-01

「船の科学」1955-5 VOL.8 NO.5 より

・油槽船「WORLD JUSTICE」(Liberia)

WHEEL HOUSE

DW : 33,070 LT

・船主 : Inter marine Nav. Corp.

・建造 : 三菱造船(株)長崎造船所
昭和29年11月30日竣工

- ・この船も磁気コンパスが部屋の中央に装備されている。



[メモ]

- 1) この時代では、磁気コンパスは WHEEL HOUSE の中、中央に装備されているのが多かった。この場合、構造物による地磁気の乱れを少なくするため、W/Hの床、天井、前壁の一部を非磁性体の材料、例えばアルミニウムなどにしなければならないが、当時はそこまではやらなかった。(反映式磁気コンパスを使用した船も見られるので、この頃から反映式が使用され始めたことが窺える。この場合、コンパス本体は COMPASS DECK に装備し、コンパスの表示が見えるよう、鏡やレンズの入った筒を操舵手が見ることが出来るようデッキを貫通して装備した。)
- 2) レーダもこの頃(昭和26年)から使用されだした。指示機の外観が大きい。まだトランジスタは使用されておらず、真空管式であったので仕方がないであろう。この頃のレーダは殆んどが10CM波(3000MHz帯)レーダであった。それで、アンテナ、送受信機間には太い矩形形状の導波管が使用されていたが、これを曲げるのに現場は苦労したと聞いている。
- 3) 無線機のコンソール化は国内ではまだ進んでいないようだが、外国船では既に行われていた(RCAの無線機)。